

第 2 回糸島市総合計画審議会
全体会

日時：令和元年 8 月 1 日（木）

午後 5 時 00 分～

場所：庁議室他

（出席委員）

三谷委員、内野委員、藤原委員、木下委員、小金丸委員、藤委員、加藤委員、柚木委員、
高野委員、坂井委員、辰巳委員、小川委員、吉川委員、那須委員、森松委員、鶴原委員、
中尾委員、豊田委員、佐藤委員、邊委員、山崎委員

（欠席委員）

古川委員、浜地委員

1．開 会

高野会長：

皆さん、こんにちは。今日もまたお集まりいただきましてありがとうございました。前回 6 月に 1 回目の審議会を開きまして、全体の状況についてのご意見をたくさんいただきました。それに基づきまして、今回事務局の方からご回答をいただきながら内容の確認をしていきたいと思っております。議事録についても中身をご確認いただいておりますので、ここからはそれに引き続く形で進めていきたいと思っております。さて、前回議論の中で、人口の減少等についての様々なご意見等がございましたが、私たちはたとえば人口減少が進んでいると言いますと、頭でわかったようなことについてしまいます。学生たちに日本の人口は何人かと聞くと、1 億 2,600 万人とすぐに答えます。福岡県の人口は何人かと聞きますと、だんだん下を向いてきます。糸島市の人口は何人かと聞くとほとんどの学生は答えられません。生まれた町の人口は何人かと聞くと、本当に知らない。ただ人口が減っているというのは何となく心配だと思っている。ところが前回、校区别の人口を見て、きちんと糸島の地域別の内容を見ていきながら議論をしようということがありました。これこそがきちんとした正確な現状分析に基づいて計画を立てていく基本だと改めて心強く思った次第です。今日もいろいろと議論をいただきながら、さらには部会に分かれての議論も始まるというふうに聞いておりますので、多くのご意見をいただいて進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局より出欠報告をお願いいたします。

事務局：

本日の欠席者は古川委員、浜地委員の 2 人です。内野委員、木下委員、吉川委員の 3 人につきましては、遅れて出席していただく予定になっております。現時点での出席者は 18 名でございまして、委員総数 23 名の半数以上であり、本審議会の開催要件を満たしている事をご報告いたします。前回欠席をされていましたが委員の方につきましては、本日委嘱状と第 1 次長期総合計画後期基本

計画を配布いたしますので、ご確認をお願いいたします。

会長：

今回の審議会からご出席いただきまして、前回ご欠席だった委員の皆さんひと言ずつごあいさつをお願いできればと思います。

・自己紹介

2. 報告事項

会長：

ありがとうございました。それでは早速ではございますが、審議のほうに入らせていただきたいと思います。先ほど申し上げましたが、本日は後半、部会に分かれて審議ということですが、前回様々なご意見をいただきましたので、それについてのご説明といいますか市からのご回答をしっかりといただきたいと思います。およそこれから1時間前後、その後部会に分かれるという形で進めていければと思っています。それでは、最初の報告事項であります。第1回審議会の審議結果について、資料の を事務局からご説明をお願いいたします。

・第1回審議会の審議結果について (事務局より資料に基づき報告)

会長：

すでに議事録をご確認いただいておりますので、前回の審議の内容は皆さんご確認いただいていると思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは前回、委員の皆さんから追加で資料があればご意見がありましたので、それについて、追加資料のご説明をお願いします。

・追加資料について (事務局より資料に基づき報告)

会長：

前回の議論の中で必要な資料をとということで、説明いただきました。中身について質問等あると思いますが、部会の審議の中で資料として使っていただくということで、今回については資料をいただいたということの確認とさせていただきたいと思います。また、必要な資料等がありましたら事務局で対応していただけますので、随時お願いするということで進めていければと思っています。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは報告事項に区切りをつけまして、審議事項に入っていきます。

審議事項につきましては、審議スケジュールの変更についてご説明をお願いします。

3. 審議事項

- ・ 審議スケジュールの変更について
(事務局より資料に基づき説明)

会長：

今説明にありましたが、前回も実に多くのご意見をいただきまして、しっかりと議論をする時間をわずか1回増やすということですが、持ってはどうかということで事務局とご相談をさせていただきまして。委員の皆さんにはお忙しい中、1回とはいえ、ご負担を増やすことになってしまいます、ぜひご理解いただきまして、このスケジュールで進めることをお認めいただけないかと思っております。進め方についてご意見等ございましたらいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

- ・ 日程調整表について説明
(事務局より資料に基づき説明)

会長：

それでは続きまして、前回ご意見をいただきました、基本構想のたたき台に対して、事務局からご回答をいただきたいと思っております。やはり、そこが委員の皆さんの中で共有されておりませんと、先に進んでいくのがやや不安ですので、ここはしっかりとご説明をいただきたいと思えます。それでは事務局からご説明をお願いいたします。

- ・ 基本構想（たたき台）に対する指摘事項について
(事務局より資料に基づき説明)

会長：

ご説明ありがとうございました。前回いただいた議論を事務局のほうで検討いただいて、反映できるものは反映し、別の表現あるいは別の部分で対応するという事についてもご説明をいただいたところです。項目ごとに一つずつ確認をしておきたいと思っております。まず2ページの計画策定の趣旨のところであります「ワンランク上」、あるいは「新しい時代の糸島」というのはどういうことなんだというあたりの部分、市民協働を打ち出していくという部分、こういう点について今ご説明をいただきましたが、これについてはいかがでしょうか。ご意見がおありでしたらいただきたいと思えます。このあたりは基本構想の部分で「ワンランク上のまち」というまちづくりとはどういうものなのかと質問をいただいているということです。そこでもご意見いただければと思いますが。中尾さんでしたか、市民協働の視点が織り込まれていないのではないかということでしたが。

中尾委員：

そうですね。基本条例をここに掲載していただきましたので、非常に明確になったのではないかと感じております。

会長：

確か加藤さんがワンランク上という意見をいただきましたが、いかがですか。

加藤委員：

基本方針のところに、目指すべき姿を通常の行政計画ではいつも掲げているのですが、それを通常ではなくもう一つ上を目指すという形では、ワンランク上で良いのかなと思っています。14ページのところのワンランク上、最初に趣旨のところに入っていたところは、糸島の良さというのはいろんな暮らしがあって、いろんな多様な方たちが自由にっていて、そのベースが良いのに、もう一つ上というのはどうだろうか。そこが外れたので、それぞれの質という部分で最上位のまちを作るという意味で考えています。

会長：

今の点でご意見いかがでしょうか。最終的には、これはまだたたき台の段階ですので、全体を見ながら検討していくということになりますが、ひとまず今の段階での修正ということによろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは続きまして、私はまだ社会潮流ということが馴染まないのですが、現状がどうあるのかというところで、修正を加えていただきました。基本的に書きぶりを統一していただいたということで、読みやすくなったと思いますし、環境保全と持続可能なまちづくりとしてSDGsの問題を加えたということでご説明をいただきましたが、この点につきましてはいかがでしょうか。お気付きの点がありませんでしょうか。基本的に前回もそれぞれの項目は認めていただいております、中身について整理しようということですし、環境保全であるとか世界的な目標であるSDGs持続可能な開発目標について追記するということですので、特段ご意見がなければ、現時点ではこれをお認めいただくということでよろしいでしょうか。それではお認めいただいたということで、その次ですが、7ページ以降は今回大きく、前回のご意見をいただきまして修正をいただきました。これはいかがでしょうか。ご覧になっていただいて、今のご説明に限らずお気付きの点がありましたらいただきたいと思います。いかがでしょうか。

藤原委員：

何点かあるのですが、今後どんどん追加されていくものだと思いますが、これは最終的には市民の方々が読まれるということで、難しい言葉に注釈は必要かと思っております。7ページの社会増減という言葉も難しいと思いますし、自然増加率も難しい。ここだけではないのですが、一貫通してです。前回いただいた第1次糸島市長期総合計画を見ますと、欄外のところに用語解説というものが設けられていて、難しい用語は説明されていますので、こういうのも良いと思います

し、あとは印を付けて1番最後にページごとにまとめて説明をされても良いと思います。今後ずっと、用語は説明を付けていくことが必要だと思いました。2つ目ですが、これを見ていましたら比較対象が、全国、福岡県、福岡都市圏、糸島市という比較をしているものと、福岡都市圏、大野城市、宗像市、糸島市というふうに市で比較されているものがありますが、なぜ福岡都市圏と大野城市と宗像市と比較しているのか分からなくて、そのところをなぜ必要なのかをご説明いただくことが重要なのか、重要でないならば統一して、全国、福岡県、福岡都市圏、糸島市としたほうが分かりやすい。市の名前で比較することが重要なのか、そこが記載されていないので分からなかった。そこら辺の決断といいますか必要かと思います。それは分析の中にも入ってくる内容ではないかと思います。3つ目ですが、棒グラフと折れ線グラフですが、人口状況の真ん中で、福岡都市圏が0.61でその上に丸が付いて0.73と書いて、下は棒グラフですが、上は折れ線グラフになっています。折れ線グラフは推移を見るときはいいですが、年や月といった経時的な表示がグラフの横軸に示されて、それに折れ線グラフを見てどう変わったかという推移を見るようなものだと思いますので、このように福岡都市圏と大野城市と宗像市と糸島市と、別に折れ線グラフにして推移を見ることでもないのか、これは棒グラフでここに付けたほうが良いのではないかと思いました。それと、7ページの下の高齢化率のグラフですが、平成27年の糸島市が26.9になっていますが、右の折れ線グラフは25.9なので、これはなぜかなと思います。それと同様に9ページの下の平成30年度版糸島市統計白書の糸島市の製造品出荷額等は24,699,000円ですが、これはたまたまですが、糸島市統計白書を見ていましたら、このところが24,669,000円になっていたもので、違うと思いました。あとは8ページの健康・福祉の状況で、特定健診の受診率が高いと書いているのですが、38.9%で高くないです。比較すれば高いですが、決して高くはなくて、実際に健康づくり課の方々も受診率をもっと上げようとして、いろんな対策、事務事業をなされていて、それに対しての予算も入っていますので、ここで高いと書いてしまいますと、なぜそんな事務事業をやるのかとか、なぜそこに予算を割くのかということになりますので、確かに高いのですから、特定健診の受診率は高い、しかし、というような、高いのだからもっとやらなければいけない、もっと実際に上げないと生活習慣病はなくなりませんので、そのところの文言が必要かと思いました。

会長：

いずれもとても大事なご指摘で、特にグラフはデザインの問題なのですが、これは私も気になっていたところがありましたので、後で申し上げようかと思っていたのですが、ここはご検討いただくということで、それ以外のところのご対応について事務局から説明をお願いします。

事務局：

難しい文言の注釈につきましては、計画書がある程度固まってきたときに、全体を通してページの下に付けるものなのか、後で末端に付けるのか検討させていただくか、注釈は付けていこうと考えています。それと、データを比較するときに、全国、福岡都市圏というものと、大野城市、宗像市と比較するものがあるのは、これは内部でも検討しました。通常、グラフ比較は全国平均、福岡県平均、福岡都市圏平均というように比較していきますが、今回糸島市としてはワンランク

上のまちを目指し、そういう事を考えたときに平均を目指しているわけではない。なので、同じ10万都市で、例えば大野城市だと子どもが増えているのに、なぜ糸島市は増えていないのか、そういったところを、トップを走っているところを見据えつつ計画を作っていくという趣旨で、都市圏平均で見たほうが良いものは都市圏平均で、単独の視点で見たほうが良いものは単独の視点でみるという比較にしています。棒グラフ・折れ線グラフのご指摘はおっしゃるとおりなので修正させていただきます。数字的なミスがあったのは大変申し訳ございません。もう一回精査いたします。特定健診の受診率もおっしゃるとおりで、健康づくり課が一生懸命頑張らして、よそと比べると高い状況ですが、これを高いと書いてしまうとおっしゃるとおりなので、ここについての表現は再検討いたします。

会長：

藤原委員のご指摘で、大野城市や宗像市というところが糸島市のライバルということで、人口10万人、あるいは目標だということですが、その辺につきましての説明が必要なのではないかのご指摘だと思いますので、なぜ宗像市なのか、なぜ大野城市なのかということをお互いが気分を害されない形で書いていただくのがいいと思います。それについてもよろしく願いいたします。それと、7ページのところで、自然増加率が低いということは、偏に子どもの問題だけではなく、なくなる人が多いということも非常に大きな問題で、私は言葉としてはあまり好きではないですが、多く死ぬと書いて、「多死社会」という言葉をよく使うようになっていますが、そのような中で高齢者の影響というのがかなり大きいと思います。その点を少し加味しないと、糸島では子どもをもつ若い世代が増えているわけですから、その方たちを上回るような高齢者の状況があるのではないかと思います。その点は少し注意いただいたほうが良いかと思います。そのほかないでしょうか。

坂井委員：

前回出ていないのですが、糸島市の現状と課題という項目を抽出されたのは、恣意的に感じました。その前の社会潮流という項目で9個の項目を挙げていますが、その現状に対して糸島市は今どういう状況にあるのかというふうに流れていくと、スムーズに読めるような気がしました。新しく追加された多文化共生社会やSDGs、そういった部分のところが項目の中から抜けているような気がします。そういったものが入っていると、世の中に比べて糸島市はどうだろうかという事がスムーズに受け取れるのではないかと。その点、どうやって選ばれたのかがよく分からない。目標をお伝えしたから選ばれたのか、というのがあるかとは思いますが。ずっと読み比べて行くに従って、これがこういう事ですという事を説明されるのはデータの方が良いかと思います。

事務局：

おっしゃるとおり、社会潮流の中でデータ比較をしておりません。SDGs 持続可能な部分と多文化共生、そういったものは現実としましても現状と課題としても記載できるよう検討していきたいと思っています。

豊田委員：

2点あります。1点目は、7ページ目のタイトルにある「課題」というキーワードについて、文中のどの部分が該当箇所かわからないことです。文中には「課題」に近そうなものとして「今後のポイント」という記載があります。タイトルの「課題」が文中の「今後のポイント」を指すのであれば表記を統一した方がいい。

その上で、課題として捉えた理由を明瞭に記載しないと、以降の話の展開に対する納得性が極めて脆弱になります。2点目は、7ページの(1)の今後のポイントの2つ目の「移住・定住の促進」です。移住・定住の促進と書いていますが、データでは人口増加率が相対的に高いので、これをさらに促進しなければならない理由が読み取りづらいです。理由を直接的に説明できるデータを加えるべきです。

事務局：

ここで移住定住の促進というのを加えていくのは、確におっしゃったようにデータはないのですが、現実問題としては、糸島市は転入超過によって人口増加になっていますが、人口が増加しているのは前原地区だけで実際周辺部分については人口減少が止まっていない状況です。ですので、このように移住定住の促進を強化するというのを、目的を明確にして将来的に持続できるように、移住定住に誘導し、減少幅を減らしていくなどの意味で書いております。そういった情報が分かるように、少し工夫させてもらいます。

会長：

部会の中でも、その点をじゅうぶん踏まえなれないいけないと思いますので、そこでまた議論いただいてその必要なデータをコンパクトに集まるようなデータを出していければと思います。そのほかはいかがでしょうか。

邊委員：

豊田さんが言われたことと重なる部分もありますが、今後のポイントのところが、どうしてポイントで出てきたのが、(1)から(6)まで全部疑問に感じるところがありました。問題というのはここに書いてあるとおりだと思いますが、その原因というのを具体的にどういうふうに改善していきたいのか、将来の展望や目標、そういうものが明らかになれば今後のポイントとなっているものや課題がもう少し、クリアになるのかと思いました。それと、全体的に話を聞いていると、ほかの大都市圏の真似と言ったら言い方が悪いのですが、うまくいっているところを見習っていこうというところや、一般的な問題の解決策はこれだからそれに乗って行こうというようなところがあるのかと思ったのですが、糸島市の現状と照らし合わせると、それが必ずしも妥当ではないところがあるのではないかと感じたので、その辺りを検討していただければ良いと思います。

会長：

それはとても大事な話で、まさにこの点を部会の中できちんと議論いただいて、そこから、おそらくもう一度、この課題は何なのかという辺りは、どこかの段階で事務局にも考えていただきますが、私たちの課題としてここに上げるべきなのはどういうことなのか、ということも部会の中で考えていくということになるかと思います。今日、100 点のたたき台ができるわけではありませんので、いただいた意見を基に、部会の議論につなげていきたいと思います。そのときにまた、聞いていただければと思います。少し時間も迫っておりますので、このデータの部分は根幹の部分ですので、部会の中でこういうデータがほしい、こういう形で課題につなげていきたいということが出てくるといいますので、そこでまた修正を加えていくということで、一旦はここでお認めいただいたということで先に進めたいと思っております。次に「ワンランク上のまちづくり」ということで、14 ページのところですが、これについては先ほど加藤さんの方からも言っていたしましたが、ひとまずはこういう形でということによろしいでしょうか。ご意見があればいただきたいのですが。

委員：

いいと思います。

会長：

ありがとうございます。それでは、一旦はこれでということで進めます。それでは、次に将来人口のところ 15 ページでございます。ここについてもご説明がありました。なお、校區別の人口は、縦軸の数字が揃っておりませんので、これは上限をそろえていきたいと思っておりますので、お願いしておきたいと思います。それ以外にいかがでしょうか。

辰巳委員：

16 ページで、グラフを見ますと、2020 年から将来展望の数字がポコッと上に上がって、これはなぜこんなに上がっているのかと思って見ていたのですが、これはもしかして、実績値が帳消しになっていて、将来推計のほうに住基ベースになっているのではないかという気がするのですが、もしそうだとすると、まずいのではないのでしょうか。

事務局：

今回の将来人口ということではなくて、総合戦略を作る 5 年前に人口ビジョンを市でまとめています。その時の資料をそのまま載せているのですが、1 番下がおっしゃるとおり社人研の人口推計で当時の糸島市の、例えば伊都の杜の整備などを行って、人口を青のラインにもっていきますという推計です。人口ビジョン策定当時に載せているもので、将来的にこのような展望を目指すというグラフになっています。

辰巳委員：

グラフを作ったときには住基と国勢調査が混ざっているという理解でいいのですか。将来展望

もですか。

事務局：

16 ページのグラフにつきましては、人口ビジョンで出している国調ベースでの推計値です。今回、総合計画においては、住基人口でいこうと思っています。このまま載せるのであれば、そういった説明が必要だと思います。現状を言いますと、2015 年くらいから、若干角度は違いますが、人口が伸びてきて、住基人口で行くと、10 万 2,000 人は 2020 年ごろに達成できそうです。国調ベースに直すと若干下回りますが、概ねこのラインにいきそうだということで、総合戦略の人口ビジョン自体は大きく変わりませんので、これを目標に進めていこうと思っています。

会長：はい、よろしくお願いします。それでは、ほかにはありませんか。

豊田委員：

校区别人口のデータを拝見して感じたことなのですが、右肩上がりの校区と、右肩下がりの校区があります。今回の計画は糸島市全体について検討することは承知していますが、おそらく人口の増加していく地区と人口が減少していく地区では打ち手が異なってくるのかと思います。このように地区ごとの差があるなら、すべてを均一に論じるのは無理があるので、糸島市全体の方針と、地区ごとの方針として方針を階層化する構成にするのはいかがでしょうか。方針立案の構成について、問題提起したいと思います。

会長：

前回の議論では、校区别の計画というのは現状では考えないということだったと思いますが、改めてデータをみたときに、どうするのかということだと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：

今すぐどういうレベルで書き込むかということはありませんが、基本のひとつの大きな政策として人口減少地域対策があります。人口減少地域対策については、どうしても今の行政は平等性、公平性を重んじて市全域的な取り組みをしてきましたが、人口減少地域対策は一定地域を絞った対策というのを、今後盛り込んでいかないといけないと考えておりまして、今、市の内部で人口減少地域の対策を考える際は、そういったことに特化した取り組みをやっております。その辺をみて検討していきたいと思っています。

事務局：

今回、校区単位の人口の現状なり推移なり、目標という所もいただいたかと思いますが、過去の部分をどう基本計画に活かしていくのか。人口減少地域対策、コミュニティの維持というのもあるのですが、ただ、この校区别の部分から、増える校区、そのまま推移する校区、減る校区と色々あるのです。そこから何を見ていくのかというのがあるのではないかと思います。いわゆる介護の関係だったり、福祉の関係だったり、教育の関係、いわゆる学校の適正の関係、交通の関

係など、この中から見て取れるところがあるのではないかと。ただ謳うところは全体的なものとして謳うけれども、このような事を意識して、基本計画の中に色々な分野を謳っていかないといけないのではないかと考えています。まだ、案はまとまっていませんが、うちの特色は、市街地的な場所もあれば、中山間地域、漁村地域もある。そして、もうひとつ、校区だけでなく校区の中にある行政区もあり、とても小さいところも出てきています。それはどうするのかという問題も出てくるのではないかと考えています。その個別の人口推移というのも少し頭に入れた中で、一つの政策でなく細かく見た中で推計したいと考えています。

会長：

校区别人口を中に載せるということの意味を考えた場合には、ご説明があった形での流れになると思いますので、審議会、部会の中でいろいろと具体的に考えていければと思っています。

三谷委員：

グラフですが、縦軸はそろえてもらったほうがわかりやすいです。

会長：

事務局は対応をお願いします。

それでは、25 ページのまちづくりの重点課題ですが、ここは先ほどから考えているところではありますが、見ていただきまして、お気づきの点がありましたらお願いできればと思います。いかがでしょうか。

中尾委員：

25 ページの一番上、子育て・教育環境の充実というのがありまして、私も教育関係の部会に出席するということで、この1 か月くらい考えていたのですが、この総合計画でいう子育て、教育環境というのが、どうしても市の市立小学校、市立中学校ということになるのですが、一方では例えば、産業づくり、あと、福祉とかまちづくりで、それぞれで人材が必要になります。よく総合計画であるのが、小学校、中学校の教育では、例えば ICT を活用して世界に羽ばたく子どもを作るといいながら、産業、福祉では地域に密着して、地域を担っていく人材が必要だと、その分離がどうしても出てくるものですから、そこは、人づくりというか、横串というか、将来糸島を担っていく人をどのように育てていくのかという、横串部分が非常に重要になると考えています。この後2 回ほど部会に分かれての審議ということになりますので、教育の分野で審議をするにしても、ほかの2 部会から人づくり関係の意見や要望が出てきた場合は、情報を共有させていただいて、未来に活かしてもらうために横串な人を作っていく、人づくりをしていくのが必要かといった視点で今後議論させていただければと思います。

会長：

ありがとうございました。進め方云々でご説明あると思いますが、部会での意見や議論いただいた内容は共有できる仕組みを考えないといけないと思います。事務局には共有に限らず考えてい

ただけるとかと思います。宜しくお願いいたします。

そのほかはないでしょうか。

最後のまちづくりの基本方針について、視点という部分を削除するという説明がございましたが、これについてなどご意見はいかがでしょう。

委員：

「ワンランク」はカタカナですか。

事務局：

表現の統一は、最終的に調整いたします。

辰巳委員：

27 ページの中でワンランク上の住みやすいまちというのと、単独の「住みやすい」というのが被っているので、ここでは「新しい糸島」といった感じの方が良いのではないかと思います。

会長：

修正いただくということをお願いします。それでは、今ご説明をいただきまして、それについて、前回いただいたご意見に対応いただいたということで、現時点でたたき台として、これをベースに部会の審議に入っていただきたいと思います。

中尾委員：

先ほどの事務局からの説明で、最後の 41 ページについては、行政経営戦略でいきたいと、そういうことで説明があったのですが、前回発言させていただいた時に、私の思っているイメージが伝わりにくかったと思ひまして、ひとつ参考に大阪府の伊丹市が作っている第 5 次の総合計画ですが、行政経営戦略的なページのところが、基本方針が 3 つの柱になっておりまして、基本方針の 1 としては参画と協働による市民、2 は多様性を認め合う共生社会、3 は自立的な行財政。まさに 41 ページそのものが、3 つの内の 1 つがこのように 1 ページであるということです。先ほど、市民参画基本条例をお示しいただいて、この冒頭部分では全体的に市民による市民のまちづくりですよ。総合計画ですよと伝わってきてこちらに作成させていただいたのですが、一方では、下支えというご説明がありましたが、やはり行政の下支えはもちろん大事なのですが、市民と企業・団体が一緒になって、これからの未来に糸島を作っていくという、そういう方針が何か盛り込めたらと思ひまして、再度意見を述べさせていただきます。

事務局：

今言われた部分のところも、1 つは今まで総合計画の中に、いわゆる行財政の合理化など少し入っていたのですが、実際には総合計画を片方で作る、片方で行財政改革の計画を個別に作っていたのですが、やはりまちづくりをやっていく上では一緒にやった方が、いいのではないだろうか。まちづくりの基盤が下支えといったところのきちんと市民の声を示した中で、こういう経営を

やっていこうということ、入れた方が良くはないだろうかと思ひます。ただ、中尾さんが言われるように、今後のまちづくりにおいて行政だけではやれないのです。民間の力も借りないといけない、市民の力も借りてやっていかないと思ひますので、少しこの行政経営戦略の中で、今、中尾さんが言われたような参画だとか協働だとか、多様性だとかそこらへんを少し入れ込むことを検討させていただきたいと思ひます。ただ、一応行政経営戦略は総合計画の中に入れて、このように自治体を経営していこうというところを示した方がいいと思ひますのでそこは入れさせていただきたいと思ひます。考え方としてその2つは入れさせていただきます。

会長：

ありがとうございます。それでは現時点の案としてお認めをいただいたということで、先に進めさせていただきたいと思ひます。この後、部会での第1回目のご議論をいただきますので、部会での検討方法等について事務局から説明をお願いいたします。

事務局より部会の説明

閉会